

平成 26 年度 特別養護老人ホーム「喜久の園」事業報告書

第1 概況

1 基本理念、法改正への取組み

施設は「ご自宅の安心感を提供する場」として、ご家族との連携を基本に、ケア向上を努力してきた。特養・短期部門においては介護力アップと質の向上を目指し、職員教育に注力を注いでおり、介護福祉士や社会福祉士など資格取得についても積極的に推進して、より専門性を習得した職員づくりを目指した。また平成27年度の介護保険改定を踏まえ、人員・体制・管理など大幅な見直しが求められることに対し、迅速かつ的確な運営のための準備を進める年でもあり、特養への入居条件の限定などについても柔軟に対応できる体制作りと、地域社会資源の重要な施設として、信頼や評価について引き続き真摯に取り組んできた。また今後予想される南海トラフ巨大地震や近年発生している異常気象に対しても日頃の訓練を含め、備蓄の在り方や避難所としての機能確保の在り方などに加え、地域住民とより連携した取り組みなどについて引き続き積極的に実施するとともに、今後、定期的な訓練の在り方や、内容についても精査してより具体的な内容の訓練としていく必要がある。

2 個人の尊厳尊重と利用者満足度向上への取組み

個人の尊厳を守り個々の意向を尊重し、ゆったりとした快適な生活を継続的に支援していく事や、様々な行事やレクリエーションを通してホームでの生活を楽しく、安心して暮らせる環境作りに心掛けた。また、全職員が数多くの研修や勉強会へ積極的に参加して支援・資質向上に取り組んだ。

3 経営の安定と人材確保への課題と施設整備

平成27年度の介護報酬改定では、大幅な減収が決定となり、事業規模の小さな施設及び法人は、非常に厳しい経営環境に置かれている。現在の特養50人規模の施設で、かつ償還金を返済している経営状態では、収益どころか資金収支のマイナス拡大が予想され、今後、近い将来に向け規模拡大が急務であり、市内特養の集約化による効率の見直しが必要である。施設整備について、本年度7月に委員会が発足し、具体的な計画案についての方向性等が検討され、平成27年度に引き継がれた。さらに人材確保については介護・看護共に非常に厳しい状況が続いているため、職員紹介制度や、就職フェアなどあらゆる方法により、維持・確保を展開しているところである。また職員の資質向上の結果による施設評価が、一番の確保につながる手法であることを念頭に実践していく事が最重要である。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成 26 年度の利用率は、下表のとおり前年度に比べて長期入居は 2.3%の減少、短期入居は前年度に比べ 4.4%減少した。この要因は長期の場合、退去者及び入院者の増加であり、定員の 56%にあたる 28 人の退去者、入院者 16 人、平均入院日数 25 日という数字が示すとおりである。また、退去から次の入居に至るまでの所要日数は前年度の平均 6.2 日から平均 11.1 日と日程調整に日数を要した。一方、短期の減少は併設特養への入居をはじめ、近隣市町の事業所の増設、特に単独の短期事業所の積極的な受け入れ態勢が影響している点は否めない。ただ、余暇活動への取り組み継続していく中で、定期的に利用されるリピーターからの声を大切に、利用者満足度向上に取り組んでいくことは継続できている。

(単位 %))

区分	26年度	25年度	増減
長期入居者 50 人	96.0	98.3	△2.3
短期入居者 10 人	82.0	86.4	△4.4

2 経営状況（事業活動による収支）

平成 26 年度の介護保険収入は昨年度より-5,487 千円減少した。主な要因は平成 25 年度の退所された方が 19 名に対し、平成 26 年度は 28 名と大幅に増加。またそれに伴い空床日数（退所されてから入居までの期間）が 2 倍（311 日）となり減収の要因となった。背景には入所申込みはしているものの、緊急性が薄くまた他のサービスを利用しているなど様々だが、事前の準備方法など今後の一番の課題として取り組んでいく必要がある。ショートステイに関しても-1,315 千円（95.3%）と減収となった。引続き新規利用者の利用促進と、ご家族のレスパイト（高齢者などを在宅でケアしている家族を癒すため、一時的にケアを代替し、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービス。）の位置付けを再確認し、ケアマネとの連携を深めていく事が必要である。開設より 10 年目を迎え施設内設備に関しても不具合が徐々に発生しており今後、優先順位を確認しつつ対処が必要である。

収入

(単位 千円)

区分	26年度	25年度	増減
介護保険	273,576	279,063	△5,487
その他収入	2,344	3,296	△952
会経間繰入金	5,500	0	5,500
計	281,420	282,359	△939

支出

区分	26年度	25年度	増減
人件費	194,958	194,394	564
事務、事業費	73,604	71,775	1,829
会経間繰入金	0	3,100	△3,100
計	268,562	269,269	△707

3 職員状況（部門別職員数）

平成26年度末の全体職員数は54名で、正規職員は28名で、内訳は介護職員21名、看護職員2名、事務室職員（調理含む）5名である。一方、非正規職員は嘱託職員を含め26名である。

なお27年4月1日現在の職員数は正規職員2名増、非正規職員1名減の55名である。

（平成27年3月31日現在）

（単位 人）

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護主幹	主任 CM兼事務 管理室員	送迎担当 清掃員	主任 副主任 一般	看護師 嘱託医師	管理 栄養士	
正規	4	0	—	21	2	1	28
非正規	—	2	4	16	4	—	26
計	4	2	4	37	6	1	54
26年同期	3	3 (2)	3 (3)	35 (14)	7 (4)	1	51 (23)

注) 1 26年同期の（ ）は、非正規職員である。

2 他に育休中が1名いる。

4 施設整備等の状況

施設整備のための工事は特になかったが、空調設備老朽化による修繕に486千円要した。

5 特記事項

(1) 事故防止と苦情解決への取組み（資料編11.18）

事故防止は、ケアの質向上の大きなポイントであり、事故防止委員会では原因分析や再発防止に取組み、26年度は156件と「160件以下」という目標を達成した。前年度の213件から57件減少した。

また、苦情件数は前年度の4件から9件と件数は増加した。なお、各部署スタッフからの報告を受け対応したケースには個々の職員の「耳を傾け寄り添う」、要望に沿えるよう努めていく姿勢によって築かれた信頼感が解決の糸口になったと思われる事例もあり、日頃からの真摯な姿勢が重要であるとあらためて認識した。

(2) 余暇、レクリエーション活動の状況

個人の尊厳や利用者満足度向上のためには、余暇活動は重要であり歌声広場や各ユニットでの行事を中心に実施した。この結果、歌声広場は25年度の255回から、各ユニットでの行事は25年度の43回から増加した。

区分		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
歌声広場 (嚙下体操)	回数	74	71	66	63	274
	利用者数(人)	1,636	1,472	1,318	1,055	5,481
	1回平均	22.1	20.7	20.0	16.7	20.0
各ユニット 行事等	回数	18	17	29	22	86
	利用者数(人)	141	111	209	172	633
	1回平均	7.8	6.5	7.2	10.8	7.4

(3) 家族、利用者との交流行事の開催

- ① 家族懇談会 5/17 (土) 開催—21 家族 (22 名)
 内容： 事業方針、年間事業計画の説明。職員紹介。
- ② 納涼祭 7/19 (土) 14:00～16:00 開催
 長期入居者 46 名・短期入居者 8 名・31 家族 (50 名) ・招待 24 名
 来賓 13 名・ボランティア 7 名 合計 148 名
 内容： 屋内で開催。出店品を楽しみ、ミニゲームの企画、きくのん招待
 歌声広場を通して日頃のレクリエーション活動も紹介しご家族も参加。
 ボランティア活動の方や近隣の方も招待。
- ③ 敬老祝賀会 9/14 (土) 開催—長期入居者 47 名・短期入居者 8 名、
 ・30 家族 (39 名) ・来賓 13 名
 内容： 式典・記念品贈呈、歌声広場 ～喜久の園歌声合唱団～

(4) 研修、モデル開発への取組み

人材育成のカギとなる研修充実のために、園内外の研修の他に、県立短大委託の介護技術向上のための基礎研修及び科学的介護の実践に係る介護福祉事業のモデル開発の2年目へ取り組んだ。

- 法人基礎研修→会場 地域交流センター「うらら」 (喜久の園)
- | (研修項目) | (開催日) | (参加人数) |
|------------|-------|-------------|
| ・コミュニケーション | 8/11 | 4名 (法人内11名) |
| ・排泄介護 | 11/21 | 4名 (法人内12名) |
| ・食事の介護技術 | 12/17 | 4名 (法人内8名) |

○モデル開発

- ・介護職員研修(6名) 計13回
 3/28, 4/16, 5/21, 6/6, 7/4, 8/8, 8/11, 9/26, 10/15, 11/21, 12/17, 1/20, 3/16
- ・教育研修委員会 マネジメント支援 計5回
 4/11, 5/16, 6/13, 10/9, 2/26

(5) 地域交流センター「うらら」の利用

地域住民や利用者、家族との交流の場さらに各種研修の場として積極的な利用に努めた。また、25年3月の地元仲島自治会との「防災に関する覚書」に基づく防災用品を保管、管理している。また平成26年度は12月7日の地域防災の日において、青葉台地区要援護者救護の「うらら」への受入訓練を実施した。

第3 部門別の状況

1 事務・管理部門 (資料編 8・16)

施設全体を把握し、事務処理し管理する部門として、利用者、家族には来園しやすく、職員には働きやすい機能的な勤務環境整備のため、次の取組みを進めた。

- ① 来園者するすべての方への接し方次第で施設の印象が決まることを常に意識し、明るいあいさつ、応対に心掛けた。なお、年間面会者は4,434名であった。
- ② 施設全体の環境美化、緑化に努め、明るい清潔な施設環境づくりを進めた。
 特に玄関には、生け花教室ボランティアの協力で常時活花が置かれるようになった。
- ③ 働きやすい勤務環境のために、職場改善活動(一人一改善)に取り組んだ結果、32名の職員から改善17件、提案等19件 計36件の提出があり、職場改善を進めた。

- ④ 「業務分析表及び職場改善提案」を基に、全職員との個別ヒアリングを、年2回行い職員の意識啓発と共に施設運営改善を進めた。
- ⑤ 余暇活動、嚙下体操、認知症対策の一環として、歌声広場と称した合唱を、カラオケ機器を活用し、ほぼ毎日行うことで利用者の歌声が明るい響く環境づくりに努めた。
- ⑥ ボランティア懇談会（4/30、10/30）を開催し、意見交換と共に助言等をいただいた。
- ⑦ 施設運営の生産性向上及び経費節減のために、リース契約や委託契約の内容精査に努める中で、消耗品や修繕費を中心に経費節減に取り組んだ。
- ⑧ 保険請求に係る各種加算の算定要件の把握と確保に努めた。
- ⑨ 事業計画、予算の執行状況の把握に努めた。
- ⑩ 主な会議を次のとおり開催したが、機能する運営を目指し、原則ワンペーパー説明、1時間以内を目安に進めた。

ア 職員全体会議（年4回 開催 — 5/26、8/25、11/27、3/26）

職員全員が参加する会議として、施設の基本方針、事業計画等を説明すると共に感染症、看取り等の研修会及び防災訓練なども併せ実施した。

イ 幹部会議（毎月2回、年21回 開催）

施設長・副施設長・介護部主幹・医務室長をメンバーとして、施設の課題の検討・決定、各部署間の調整を行った。なお、1/29（第19回）からは月1回の開催に変更した。

ウ 管理運営会議（毎月1回 年12回 開催）

幹部会議メンバーにフロアリーダー・医務室主任・管理栄養士・介護支援専門員をメンバーとし、情報の共有化と施設運営の意思統一を図る機会として開催した。

なお、会議内で入居判定会も実施し、入居手続き業務の迅速化等を行った。

入居判定会 — 年21回 開催（ ）は臨時開催日

4/21（5/1）5/26・6/23・7/24（8/11）8/20（9/3）9/22・10/20（11/10）11/19（12/8）12/22（1/13）1/19（1/30）2/20（2/27）3/23（3/26）

2 介護部門（資料編 5.6.7.18）

当園の基本理念、目標を、現場において実践する部門として、次の取組みを行った。

- ① 日々の充実や安らぎを感じられるように、ボランティアの協力を得て利用者との散歩やゲーム等のレクリエーションを実施した。各フロアで、お花見ドライブや行事（端午の節句・花火・七夕・運動会・クリスマス会・新年会・節分・雛祭り等）季節に合った企画をたて実施した。
午後2時からの歌声広場開催により、日々の生活の中で家族を含め多くの利用者が歌う楽しみが増え、利用者間の仲間意識も強まり、生活にリズムや張りが出た。
- ② 利用者との寄り添う時間を増やすために、業務の見直し(ケア確認表活用、記録の簡素化等)朝礼の活性化等を行った。
- ③ 居室担当・副担当制を継続し、各介護職員が利用者のニーズの代弁者として積極的に利用者のケアに関わることができるように努めた。
- ④ 施設の基本理念がケアプランに反映され、機能するように居室担当職員との連携を図るよう努めた。
- ⑤ 利用者や家族の参加の下、サービス担当者会議を実施した。
(入居3か月後には必ず開催した。その他状況に応じ年間30回程開催)

- ⑥ 全介護職員が看護職員による医療知識・技術チェックを年2回受け、個別指導により医療知識・スキルの向上に努めた。
- ⑦ リーダー会議を毎月1回、年12回開催
各部署・ユニットからの問題提起を事前に精査・検討し、会議時間の有効活用を図った。各リーダーが交代で議題案を作成、司会を務めることで、問題意識やケアの方向性を認識すると共にリーダーとしての資質を養うよう努めた。
- ⑧ ユニット会議の毎月1回開催を目指し、実施
ユニットリーダーが主催し、処遇方針の論議・問題解決・企画の計画に当たった。日中に会議を行い、他部署の参加により会議の活性化に繋がった。
各ユニットにおいて、ユニットのケア目標を掲げ、実践できるよう取り組んだ。
- ⑨ フロア会議を各フロア年3回以上開催
フロアのリーダーが主催し、フロア内の協力体制の強化と共に、相互にフォローに入り、他フロアの様子を把握することで横断的な介護体制を確保した。
- ⑩ 処遇別委員会
「排泄」「入浴」「食事」「介護力向上」「ショートステイ」の会議を介護職員が主体となって随時開催し、処遇内容の検討・統一に努めた。
- ⑪ 食事に係る取り組み
ユニットでの盛付けに関して、施設内で聞取りを行い、厨房での盛付けの協議・検討をした。また、科学的介護実践の一環として取り組んでいる水分摂取量は、一人当たり1134ml/日（前年928ml）であった。
- ⑫ 研修・スキルアップについて
法人研修「科学的介護の実践に係る介護福祉事業のモデル開発」の2年目であり、介護部のケア技術向上を図るために、6名の研修参加者を選出し年13回の研修を行った。同時に教育研修委員会へのマネジメント支援に向け、年5回の県立短大講師の訪問により課題を抽出し、助言・支援を受けた。法人基礎研修に職員を選出し、参加した。また、ディアコニアとの施設間職員交流研修を行い、ケア技術と意識レベルの向上に努めた。
各職員のスキルチェックを年2回実施し、各リーダーより介護技術指導を行った。また、感染症の研修結果を感染対策に反映し、利用者の感染症ゼロを継続した。

3 相談部門（資料編 11）

利用者、家族と施設を結ぶ部門として、利用者満足度向上のため、次の取り組みを行った。

- ① 利用者、家族からの要望に対し、傾聴する姿勢を常に心掛け、迅速な対応に努めた。
- ② 利用者満足度の向上、苦情ゼロ、事故件数大幅削減を目指し、利用者、家族の声を運営に活かしていくよう努めた。前年度の苦情件数4件に対し、今年度の苦情件数は9件であった。件数減少がケアの質向上に必ず結びつくよう再認識する必要がある。
- ③ 万一の事故発生時には、適切な対応と共に家族・関係機関等への正確かつ迅速な報告、説明を心掛け、本人・家族の「安全・安心・安楽」と併せ「信頼」も得られる対応に努めたものの、入院治療を要する事故の発生を未然に防ぐことができなかった。今後とも利用者、ご家族との関係構築の面からも引続き検討を要する課題である。

- ④ 静岡県指定介護老人福祉施設優先入居指針に基づいた入居希望者名簿を作成、随時相談に応じつつ、希望者の実情把握に努め、緊急を要すると思われる事例には迅速に対応した。優先入居検討委員会を開催（12/11）。
- ⑤ 社会福祉士実習養成校として実習生 1 名を受入れ、就職先として選ばれる施設づくり、相談援助業務を担う人材確保に努めた。

4 看護（医務）部門

施設の看護、医務を担う部門として、嘱託医師との連携のもと事故防止、医療ケア対策、感染症防止等のため、次の取組みを行った。

- ① 医務室会議（年 6 回開催）、健康診断（入居者・職員：年 2 回実施）
 菊川市立総合病院及び市内社会福祉施設等連絡会出席（年 4 回）
 サービス担当者会議に参加し、統一した看護・ケアに心掛けた。
- ② 昨年度から内科嘱託医へ、全入居者の一覧表を作成し、見やすさと事前に F A X 送信することで、円滑な回診が行えるように努めた。また、精神科も含め F A X ・ 電話 ・ 来診で連絡を取合い連携を密にし迅速な対応に努めた。
- ③ 事故防止の一環として、ショート委員会と共同し利用前の情報収集・お薬手帳の持参等依頼し、内容のチェック・ほのぼのの定期薬剤への入力をした。また、時間投薬や外用薬の札を作成し、ユニットに提示し投薬ミスの防止に努めた。
- ④ 介護職員への医療知識・技術チェックを年 2 回実施。
 また、個別指導を行いスキル向上に努めた。
- ⑤ 学習会の開催
 - 【看取り介護委員会】・わたしたちの看取り介護
 ・看取り介護とは何か？
 - 【感染症対策委員会】・手指衛生について
 ・感染対策の基礎知識
 ・嘔吐物付着衣類・車椅子・マットレスの洗浄方法
 ・インフルエンザ・感染性胃腸炎に罹った時の当施設の対応
 - 【医療的ケア推進委員会】・口腔内の吸痰・経管栄養を効果的に施行するためのケア
 ※アンケートをとり、その意見を次のステップにつなげることができた。
- ⑥ 看取り介護では、計画書から振返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、ご家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わずお見送りすることができ、多くの感謝の言葉をいただいた。また、他職種からの告別式へ参列することにより、更にご家族、利用者に対する職務の役割、責任の重さなどの意識が高められるようになった。
- ⑦ 感染症対策委員会を中心に予防に努め、集団感染症の発生を前年度に続きゼロに抑えた。
- ⑧ ユニット会議の日中開催に伴い、参加可能となり他職種との連携が迅速化された。
- ⑨ 衛生委員会を発足・職員の健康管理を行うとともに健康増進に努めた。

5 食事部門

食事は、利用者にとって最も重要な命の糧であり最大の楽しみであることを鑑み、食事の充実のために、次の取組みを行った。

- ① イベント食を定期的に行い、食事提供の充実を図った。
(流しそうめん、さんまの炭火焼、焼き芋、バイキング等)
- ② 季節感を感じる行事食を、月 1 回提供するよう心掛けた。
- ③ 委託業者への衛生管理を徹底し、感染症の防止に努め、衛生管理チェック表を月 1 回提出してもらい確認した。
- ③ ユニットでの調理実演を行い、出来たての物を食べていただけるようにユニットでの調理を計画した。(おやつ作り、揚げたて天ぷら、炒飯とぎょうざ、オムライス)
- ④ 食事形態の見直しを速やかに行うことが出来るよう食事内容の変更がワンペーパーでわかるよう食事伝票の様式を新しいものに変えた。
- ⑤ ケアプランと栄養プランが連動した計画書を、介護支援専門員と連携の上作成し、食事の重要性をプランにも反映できた。
- ⑦ ショートステイユニットの厨房での盛り付けを行い、食事提供の迅速化と衛生向上に努めた。
- ⑧ 管理栄養士養成校の学生の実習を受け入れすることにより人材育成に努めた。
- ⑨ 感染症、食中毒防止のために、ユニット内冷蔵庫の食品管理、キッチン周りの清潔を保つようチェックした。
- ⑩ 委託業者との月 1 回の打合せを通じて、給食材料費の収支報告の精査と併せて厨房業務全般について意見交換し、円滑な業務推進に努めた。
- ⑪ 食事委員会を月 1 回開催し、食事内容や食事提供方法の改善に努めた。

7 各委員会

施設運営の要となる各委員会が十分機能するために、事務局体制の整備と基本方針の見える化を行うことで、委員会の充実に取組んだ。

① 教育・研修委員会

ア 毎月 1 回委員会を開催し、一人一研修への取り組み、及び県立短大委託研修のマネジメント支援を受けた。教育に係る職務内容・分担と協働内容を明確化と合わせて、教育機能に係る項目の具体化とそれらの実行を教育・管理・支持する機能を組織化することにより教育研修委員会の運営のフレームづくりに努めた。

イ 研修報告書の見直し・改定を行い、研修で学んだことをフィードバックできるようにシステム作りをし、会議や委員会の中で研修報告を行った。

ウ 施設間職員交流研修を「ディアコニア」と実施した。

エ 国の指定したユニットリーダー研修へ 1 名受講し、ユニットケアへの知識・技術を深めた。

② 企画・広報委員会

ア 毎月 1 回委員会を開催し、企画・広報の充実と見える化を進めた。各ユニットが充実した行事を企画できるように情報共有と共に企画の顕彰を行った。また余暇充実のため、歌声広場は、年間 274 回開催し、その延参加者約 5,481 人となった。

イ 各ユニットの企画する余暇対策も企画書様式の簡素化など図ることで増加した。

ウ 広報は、年 4 回期限どおり発行され、できるだけ写真を多く掲載する事で施設での様子を外部へ発信する事ができた。

③ 防災委員会

- ア 被害想定をふまえた消火・避難・通報体制の確保等の防災対策に取り組んだ。
- イ 防火安全対策の徹底を図るため、毎月定期的にフロア・ユニットごとに消防設備の取扱い方法、避難経路の確認機会を計画したものの口頭での説明がほとんどであり、毎月実施には至らなかった。
- ウ 年 2 回以上の夜間訓練を計画、実施したが、入居者・職員多数が参加する避難誘導訓練の実施には至らなかった。
- エ 災害時優先電話による連絡体制の整備と共に、災害時において有効な連絡手段としてコミニエールの活用、法人主体で整備されたが、訓練も含め実用には至らなかった。

④ 苦情解決委員会

- ア 常に利用者の立場に立った対応と再発防止に心掛けた。
- イ 早期対応、関係者への迅速な周知と情報の共有化に努めた。
- ウ 苦情件数は、前年度の 4 件から 9 件と増加した。

⑤ 個人情報保護委員会

- ア 入居者、家族、職員の個人情報の漏えいや承諾なく情報が公表されないよう情報管理の徹底に努めた。
- イ 職員緊急連絡網作成による職員の電話番号に関する管理を徹底した。

⑥ 事故防止委員会（資料編 18）

- ア 毎月 1 回の委員会開催。毎月の事故状況を把握・分析することで、事故防止への意識を高めた。
- イ 千寿の園と事故の項目の統一、事故要因分析及び解決方法への具体化に向け、喜久の園独自の区分を継続した。事故発生時の家族連絡を徹底した。
- ウ 事故件数は 156 件と、25 年の 213 件と 24 年の 375 件に比べて大幅に減少した。

⑦ 身体拘束廃止委員会

- ア 毎月 1 回会議開催。拘束に対する研修を年 2 回実施した。
7 月に職員がスピーチロックについての学び、2 月にオムツ着用体験にて拘束される身体的・精神的苦痛を体感した。委員会では、身体拘束対象者の現状を把握し廃止に向けて、委員会から該当ユニットに発信・共有し部署間同士の連携がとれた。
- イ 電子ロックにより施錠されていた 1 階は常時解除し、2 階・3 階への解除に向けての取り組みを検討した。

⑧ 看取り介護委員会

- ア 会議：年 12 回開催
- イ 学習会：年 2 回開催 8/25 「わたしたちの看取り介護」
3/26 「看取り介護とは何か？」
- ウ 看取り期に近い利用者の状態や、看取り介護での反省点、ご家族からの感謝の言葉などを報告した。
- エ 昨年度から告別式に直接処遇者も参列するようになり、更に看取り介護への意識向上に努めることができた。また、告別式への参列後、事務連絡にて全職員へ報告された。

オ 昨年度からの取組みで退去される際、全館放送で音楽を流すことで他の利用者様も含み多くの人でお見送りができた。

カ 看取り介護では、計画書から振り返りまでを他職種と共に統一したケアを行い、家族への心身の負担の軽減に考慮し、昼夜問わぬお見送りが出来良かった。

⑨ 感染症対策委員会

ア 会議：年 12 回開催

イ 学習会：年 2 回開催 6/16「手指衛生について」

ブラックライトによる手洗いチェック実施

11/27「感染対策の基礎知識」「嘔吐物付着衣類の洗濯方法」

「嘔吐物付着の車椅子・マットレスの洗浄法」

「インフルエンザ・感染性胃腸炎に罹ったときの当施設の対応」

ウ 7月 中東遠地区職種別研究会にて「感染対策の基本について」の研修会を開催。

エ 10月 流行期に合わせ、出勤前検温実施、翌 4 月まで

オ 11月 インフルエンザ予防接種実施（入居者・職員）

厚労省のポスターを施設内に提示

カ 事務連絡にて、最新の情報の伝達を行い、職員へ注意・周知を促した。

キ 感染症流行期における以下の事について明確に提示。

「ショートステイの対応について」、「歌声広場の対応について」、

「家族(同居)がインフルエンザに罹患した際の対応について」

ク 昨年同様、ショートステイ利用者宅へ「感染症疑い時の文書」を配布

ケ 嘱託医との連携を密にし、早期発見に努め集団感染症を発症せず経過した。

⑫ 医療的ケア対策推進委員会

ア 会議：年 11 回開催。

イ 学習会：11/27「経管栄養について」マニュアルを提示。

ウ 医療知識・技術スキルチェック（経管栄養・吸引含む）：年 2 回施行

エ 自己採点し、各担当フロア Ns.が個別採点・指導・評価を実施し、総括評価をまとめた。

オ 口腔内（咽頭の手前まで）の吸痰の同意書：入居者全員取得

カ 胃瘻による経管栄養の同意書：海フロア 3 名・空フロア 2 名取得。

⑬ 介護技術向上委員会(前褥瘡対策チーム)

ア 年 12 回、会議を開催。

イ『褥瘡予防対策についての実施及び評価』の用紙を居室担当者に毎月記入を依頼。

委員、看護師、管理栄養士で皮膚トラブルの現状を知り、予防対策の見直し・検討・情報共有に努めた。

ウ 県立短大研修を基とし、委員が移乗技術を学び、介護部のスキルチェックを元に、指導を行った。

エ 8/11「口腔ケア講習」に介護職員 1 名、看護職員 1 名参加。

12/22「介護力向上研修」に介護職員 1 名参加。

3/6「ポジショニング研修」に介護職員 1 名出席。

第4 短期入所生活介護事業所（資料編18）

選ばれるショートステイのため、利用者満足度を高める必要があり、次の取組みを行った。

- ① ショートステイユニットとなり、各利用者に担当職員を決め、今まで以上に細やかなケアができるよう心掛けた。
- ② 食事は厨房での盛り付けに変更し、食事提供の迅速化と衛生向上に努めた。
- ③ ショートステイマニュアルを作成し、統一した業務ができる体制を整えた。
- ④ 毎月行われるユニット会議にて、各利用者の情報把握や現場の状況確認を行った。
- ⑤ 利用者満足度を高めるために、今まで以上に職員間の連携を大事にして「喜久の園を利用して良かった」と言ってもらえるよう努めた。
- ⑥ ショートステイ担当看護師を通して医務室と連携し、利用者様の体調不良時も迅速に対応した。
- ⑦ 毎月定期的にレクリエーションを行う事で余暇時間を楽しく過ごして頂くことに努めた。
- ⑧ 利用前の体調確認を徹底し、感染症の持込みを防ぐ事ができた。
- ⑨ 利用率向上のため、各事業所への空室状況の案内を積極的に行った。

資料編

(平成26年度/平成27年3月31日現在)

喜久の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成27年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0	2	2	4	5	13
女性	0	2	7	14	12	35
合計	0	4	9	18	17	48
割合(%)	0.0%	8.3%	18.8%	37.5%	35.4%	100.0%

平均要介護度	4.00	(男性	3.92	女性	4.03)
平成25年度	3.98	(男性	4.18	女性	3.92)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成27年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	0	1	0	3	4	2	2	13
女性	3	1	1	1	6	5	12	6	35
合計	4	1	2	1	9	9	14	8	48

(平成26年3月31日現在)

	合計
男性	11
女性	38
合計	49

3 利用(入居)者平均年齢

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	85歳5ヶ月	60歳8ヶ月	97歳9ヶ月
女性	86歳2ヶ月	60歳9ヶ月	100歳10ヶ月
合計	85歳9ヶ月	—	—

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	86歳0ヶ月	59歳8ヶ月	100歳6ヶ月
女性	87歳2ヶ月	59歳9ヶ月	99歳10ヶ月
合計	86歳9ヶ月	—	—

4 在所期間別利用(入居)数

(平成27年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	8	4	1	0	0	13
女性	10	9	3	6	7	35
合計	18	13	4	6	7	48

(平成26年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	7	4	0	0	0	11
女性	13	5	7	5	8	38
合計	20	9	7	5	8	49

5 食事介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	11	22.9%
一部介助者	5	10.4%
介助なし	32	66.7%

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	12	24.5%
一部介助者	7	14.3%
介助なし	30	61.2%

6 入浴介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	25	52.1%
個 浴	23	47.9%

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別浴	27	55.1%
個 浴	22	44.9%

7 排泄介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	9	18.8%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	30	62.4%
歩行、杖等でのトイレ使用者	9	18.8%

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	19	38.8%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	23	46.9%
歩行、杖等でのトイレ使用者	7	14.3%

8 面会状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
人 数	332	397	327	316	514	410	294	283	422	375	323	441	4,434	4,645
1日平均人数	11.1	12.8	10.9	10.2	16.6	13.7	9.5	9.4	13.6	12.1	11.5	14.2	12.1	12.7

9 帰省(外出)状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
人 数	11	8	8	8	17	11	16	16	16	18	9	13	151	81
日 数	13	10	10	16	29	23	32	31	29	35	25	29	282	109

10 入居・退去状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
入居者数	3	1	1	2	4	4	2	1	2	3	2	2	27	20
退去者数	2	2	1	3	4	3	1	1	4	3	1	3	28	20
月末在籍者数	50	49	49	48	48	49	50	50	48	48	49	48	586	592

(平成26年度)

	入 居			退 去			平成25年度			
	男性	女性	合 計	男性	女性	合 計	入居	退去		
人 数	12	15	27	10	18	28	20	20		
入居前及び 退去時の状 況	居 宅		12	死 亡		26	居宅	5	死亡	19
	病 院		2	他施設・長期入院		2	病院	0	他施設 長期入院	1
	施設(老健等)		13	居 宅		0	施設	15	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
苦情受付件数	2	1	0	1	1	2	0	0	0	1	1	0	9	4

2) 苦情の分類一覧

(平成26年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	8
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	9

(平成25年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	3
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	4

12 他医療機関への受診状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成25年度
内科	3	4	5	5	4	5	3	1	1	2	1	3	37	22
精神科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
脳外科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
整形外科	0	2	1	1	1	1	3	1	3	1	4	3	21	0
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	0	1	0	0	1	0	0	2	2	6	2	1	15	5
眼科	1	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	9	7
皮膚科	3	2	2	4	4	2	1	2	0	1	0	0	21	3
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	10	10	11	10	9	7	7	7	10	9	8	106	41

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成26年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成25年度	
内科	14	泌尿器科	0	11	0
循環器科	0	整形外科	1	0	1
脳外科	2	口腔外科	0	0	0

2) 処置状況

(平成27年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成26年3月31日現在	
経口与薬	43	経管栄養	4	43	6
創傷処置	5	バルーンカテーテル挿入	1	5	1
軟膏塗布	15	浣腸、摘便、軟膏貼付	適宜	7	適宜
点眼	8			4	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

(平成26年度)

月	回数	月	回数	平成25年度	
4月	2 (8)	10月	1 (12)	1(4)	2(16)
5月	3 (14)	11月	1 (8)	1(5)	0(8)
6月	1 (13)	12月	3 (15)	1(5)	1(8)
7月	2 (19)	1月	2 (19)	2(13)	3(13)
8月	2 (13)	2月	1 (8)	1(10)	2(11)
9月	2 (13)	3月	4 (12)	2(7)	1(12)
合計	24 (154)			16(112)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

(平成26年度)

月	回数	月	回数	平成25年度	
4月	4 (1)	10月	2 (1)	0(3)	3(0)
5月	6 (4)	11月	1 (0)	0(2)	0(0)
6月	4 (2)	12月	5 (2)	0(0)	1(2)
7月	7 (5)	1月	3 (2)	1(2)	1(2)
8月	3 (1)	2月	3 (1)	3(0)	2(1)
9月	4 (2)	3月	5 (3)	1(4)	1(6)
合計	47 (24)			13(20)	

14 所在状況

(平成27年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成26年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	44	26	26	44	18	16
掛川市	2	0	2	4	2	3
牧之原市	0	0	0	0	0	0
島田市	0	0	0	0	0	0
御前崎市	0	0	0	0	0	1
袋井市	1	0	0	1	0	0
豊岡市	1	1	0	0	0	0
合計	48	27	28	49	20	20

15 入居申込み(待機者)状況

(平成27年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成26年3月31日現在
菊川市	145	231
掛川市	13	13
牧之原市	4	4
御前崎市	1	1
島田市	2	2
袋井市	1	1
浜松市	1	1
磐田市	1	1
静岡市	0	1
清水町	1	-
県外	3	3
合計	172	258

16 ボランティア(慰問)状況

(平成26年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
毎週火曜日	生け花 松風花道会	生け花講座受講者の方の作品展示
毎月2回 (第2第4火)	ふれあい犬	犬とのふれあい
毎月第3火曜日	傾聴・お話しボランティア	傾聴・入居者とのふれあい
毎月第1火曜日	ハーモニー青葉	ハーモニカ演奏と入居者馴染みの歌の披露
毎月1回	ハーモニカ・オカリナ・ハンドベル	ハーモニカ等の演奏を通して音楽に触れる
毎月1回	民生児童委員 介護施設ボランティア	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	菊川市赤十字奉仕団	入居者とのコミュニケーション・外出支援
毎月1回	ちぎり絵 ボランティア	ちぎり絵 作品の展示、寄贈
隔月(年5回)	おんがくの広場	演奏と楽器のふれあい
不定期	お話しボランティア	入居者とのコミュニケーション・散歩
不定期	歌声 ボランティア	歌声広場への参加。入居者とのふれあい
不定期	季節の飾り 創作	季節を感じられる飾り物の制作
4月15日	安田隼人氏 ホスピタルライブ	アコースティックギターでのライブ(童謡・唱歌)
7月19日	菊川市公認マスコット きくのん	納涼祭 入居者、家族、地域の方とのふれあい交流
7月19日	えぷろんの会	納涼祭 出店のお手伝い
8月8日	歌謡ボランティア	カラオケでの歌声披露、入居者との交流
8月27日	紙芝居ボランティア	紙芝居の披露、入居者とのふれあい交流
9月5日	歌謡ボランティア	カラオケでの歌声披露、入居者との交流
9月24日	紙芝居ボランティア	紙芝居の披露、入居者とのふれあい交流
10月16日	腹話術ボランティア	腹話術の披露、入居者とのふれあい交流
10月19日	菊川市祭典(仲島地区)	踊り披露
10月22日	腹話術ボランティア	腹話術の披露、入居者とのふれあい交流
10月27日	六郷小学校 2年生 63名	踊りや合唱の披露、入居者とのふれあい交流
10月28日	歌謡ボランティア	カラオケでの歌声披露、入居者との交流
12月24日	サンタクロース ボランティア	各フロアのクリスマスイベントに参加

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成26年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数	団体名(代表者名)および個人名	内 容	延日数	実人数
明るい社会づくり推進協議会菊川支部	タオル寄贈	1	1	小笠高等学校 2年	納涼祭 お手伝い	2	2
大浜中学校 3年 福祉施設体験	補助業務 コミュニケーション	10	10	菊川東中学校 2年		1	1
掛川東高校 2年 ボランティア体験	歌声広場 コミュニケーション 清掃	4	1	六郷小学校 6年		1	1
菊川東中学校 1年 ボランティア体験		2	2	六郷小学校 5年		1	1
六郷小学校 6年 ボランティア体験		15	1	横地小学校 4年		1	1
河城小学校 5年 ボランティア体験		1	1	六郷小学校 4年		1	1

平成26年度 合計 年間延日数 40日 年間実人数 23人

平成25年度 合計 年間延日数 66日 年間実人数 37人

18 事故調査状況

(平成26年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成25年度
怪我	転倒	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	6	12
	転落・滑落	0	0	0	1	2	0	1	2	2	2	1	2	13	19
	外傷	9	3	7	6	3	4	6	10	6	8	6	4	72	87
食物	誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	異食・誤飲	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	7
	経管栄養	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
薬	誤薬	1	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	1	11	6
	投薬忘れ	2	0	0	2	0	3	1	1	0	1	2	3	15	26
	内服薬	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	5	12
	配薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ケア	爪切り	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	4
	ケア提供	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	4
	ショート忘れ物	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4	8
物損	私物紛失	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2
	物損	2	0	0	1	0	0	1	1	3	3	2	3	16	18
	利用者同士のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		20	4	9	11	6	9	10	19	25	15	12	16	156	213

19 実習状況

(平成26年度)

学校名等	実習名	延日数	実人数	平成25年度	
東京女子医科大学	基礎看護実習	16	8	16	8
東海福祉専門学校	希望実習	0	0	15	3
三幸福祉カレッジ	ヘルパー2級実習	0	0	2	1
聖隷クリストファー大学	社会福祉援助技術実習	23	1	23	1
小笠高校	インターンシップ	3	1	3	1
静岡大学	介護等体験	5	1	—	—
名古屋学芸大学	管理栄養士臨床実習	5	1	—	—
合計		52	12	59	14

20 短期入居生活介護利用状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	41	44	38	37	38	42	50	44	38	38	43	41	494	519
総利用者数	279	285	263	257	238	230	255	249	226	226	243	252	3003	3,161

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成25年度
1日平均	9.3	9.1	8.7	8.2	7.6	7.6	8.2	8.3	7.2	7.2	8.6	8.1	8.2	8.7
送迎回数	119	115	117	109	97	89	111	111	100	86	89	97	103	123